幼稚園教諭における作業負担

ータイム・スタディの結果から

○城 憲秀 (中部大学)、榎原 毅 (名古屋市大)、
武山英麿 (東海学園大)、久保智英 (名古屋市大)、井谷 徹 (ILO)

Workloads among kindergarten teachers: Results from the time-study during daily working hours
Norihide Tachi (Chubu Gakuen Univ), Tomohide Kubo (Nagoya City Univ), Toru Itani (ILO)

1. はじめに

昨今、わが国においては就学前教育・保育の充実がさげばれている。そのためには、幼稚園教諭の労働負担を適正化し、教育の質の充実を図ることが必要と考えられる。

このなかで、保育園に勤務する保育士においては、約 30 年以前から、腰痛や頸肩腕障害など筋骨格系疾患が多発していることが報告されてきた。一方、幼稚園教諭では、幼児を相手に仕事をする、幼児用設備を使うなど、保育士労働との類似点が多いにもかかわらず、幼稚園教諭の労働負担に関する報告は少ない。

我々は、これまでの調査から、公立幼稚園教諭においても、最近 1 ヶ月間で腰や頸肩腕の痛みが「いつも」あるいは「ときどき」ある教諭の割合はいずれの部位でも 7 割を越えていたことから、筋骨格系の作業負担が大きいことを報告した。

ところで、従来報告されてきた調査のほとんどは公立幼稚園教諭を対象としてなされたものであり、私立幼稚園教諭での調査はあまりみあたらない。私立幼稚園では、公立と異なり、それぞれ独自の教育理念、方針に基づいた保育がなされており、教諭の仕事も、園児の送迎、課外授業、早朝・預かり保育などが加わり、公立以上に仕事の多様性を有している。

そこで、本研究では、公立および私立幼稚園に勤務する教諭の作業内容・作業姿勢・動作を記録し、姿勢分布等を解析することで、幼稚園教諭における労働負担を把握し、軽減を考えるための基礎資料とすべく調査を実施した。

2. 方法

愛知県内の公立幼稚園 1 園および同一学校法人に所属する 2 私立幼稚園に勤務する教諭を対象として調査を実施した。公立幼稚園では、2004 年 9 月に教諭 4 名 (3 歳児担任、4 歳児担任各 1 名、5 歳

児担任 2 名)、私立幼稚園では、2005 年 1 月に教諭 8 名 (3 歳児担任 3 名、4 歳児担任 2 名、5 歳児担任 3 名) を対象としてタイムスタディを行った。

タイムスタディは、幼稚園教諭の 1 日の作業をビデオ撮影し、後日、再生して、20 秒ごとのスナップリーディング法で解析した。

なお、対象とした公立幼稚園の正規保育時間は 9 時～14 時であり、私立幼稚園では、10 時～14 時であった。ただし、私立幼稚園では、早朝保育、延長保育を実施していた。

3. 結果

対象とした幼稚園教諭の勤務時間 568 ± 44 分 (公立: 516 ± 4 分、私立: 594 ± 27 分) であり、このうち、休憩時間および撮影不能時間を除いた時間について解析を行った (全体: 529 ± 54 分、公立: 464 ± 9 分、私立: 561 ± 31 分)。

1 日の作業内容をみると、主作業である室内および屋外保育で全体の観察時間の半数を占めていた (図1)。また、保育と関連する食事準備・片づけ、介助、保育準備等は全体の約 15% の時間となった。幼稚園教諭は保育以外にも、事務作業で約 2 割、園内清掃作業で約 1 割の時間を費やしており、多様な作業を行っていた。

公立と私立幼稚園教諭の作業内容で最も異なっていたのは、バス送迎であり、公立幼稚園では行っていないのに対し、私立教諭では 1 日の約 1 割の時間を送迎が占めていた。保育時間も公立では 53% の時間であったが、私立では 44% であった。また、休憩時間は、公立幼稚園では平均 37 分であったが、私立幼稚園では、まとまった休憩時間はなかった。

図 2 に幼稚園教諭の作業姿勢を示した。1 日の姿勢をみると、公立、私立とも約半分の時間は立位であった。椅座も、公私立ともに約 4 分の 1 の時間を占めていた。前傾姿勢は、私立で 13%、公立で 9% と若干、私立教諭のほうが多かった。し

図1. 幼稚園教諭における1日の作業内容

しゃがみ姿勢は、公立が6.6%、私立3.6%となり、公立教諭のほうが多くなった。しゃがみ、膝立ちなどの不安定な姿勢の割合は、公私立とも約2割の時間を占めた。

園児が在園する9～14時と14時以降にわけて、作業姿勢をみたところ、9～14時では、立位が66%だったが、14時以降は48%となった。また、不安定姿勢は、9～14時では25%の時間を占めたが、14時以降は12%と半減した。一方で、椅座は9～14時は17%、14時以降は47%となり、園児降園後でないと椅子に座りにくい状況にあった。

4. まとめ

幼稚園教諭の労働負担、とくに運動器負担を考えるため、公私立幼稚園教諭においてタイムスタディを実施した。その結果、幼稚園教諭では、立位時間が勤務時間の約半数を占め、しゃがみ・膝立ちなど不安定姿勢も約2割の時間、観察された。立位姿勢や不安定姿勢は、時間帯によって異なり、園児在園時に、より多く出現した。結果には、示さなかったが、園児在園時の椅座出現割合は、教諭によって異なり、個別の状況をみることで、作業改善のヒントが得られる可能性が示唆された。

図2. 幼稚園教諭の1日の作業姿勢分布 (%)

図3. 時間帯別にみた作業姿勢分布

謝辞

調査にあたり御協力を得た各幼稚園の先生方に心より感謝いたします。また、本研究の一部は文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）17590522）によった。